2023年10月　千葉公園「自然観察会のお知らせ」

日　時：2023年10月14日（土）10時00分～12時00分（120分）

会　場：千葉公園　〒260-0045　千葉市中央区弁天3-1

集　合：蓮華亭

内　容：植物と昆虫の関係・木の実の標本・木の実で遊ぼう

①キンモクセイ（もくせい科）
　黄色の花から爽やかな秋の香りが漂ってきます。

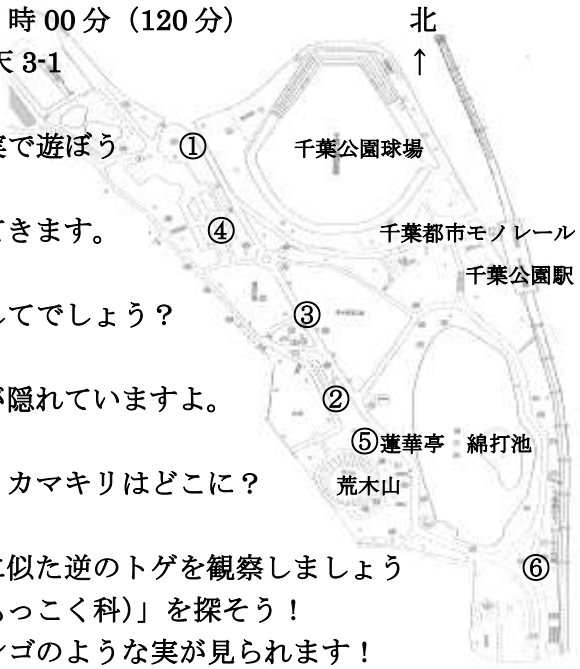
②ウバメガシ（ぶな科）
　ドングリの実がついていないのはどうしてでしょう？

③オオアレチノグサとヒメムカシヨモギ
　両方ともきく科の植物。頭状花に違いが隠れていますよ。

④カマキリ（かまきり科）
　カマキリの姿を見る季節になりました。カマキリはどこに？

⑤アメリカセンダングサ（きく科）
　ひっつき虫の一つです。漁をするヤスに似た逆のトゲを観察しましょう

⑥不思議な実「モッコク（つばき科 → もっこく科）」を探そう！
　「庭木の王様」と呼ばれ、いま赤いリンゴのような実が見られます！



持ち物：自然観察ができる服装と靴・タオル・飲み物・おやつ・図鑑（植物・昆虫・野鳥など）
カメラ・双眼鏡・敷物・帽子・雨具・筆記具・虫眼鏡・採集箱・捕虫網と籠など

お話し：亀井　尊（日本自然保護協会・自然観察指導員）

安全対策：１．マスクを着用し、ゆっくり歩いて自然に親しみます
２．寒暖差の対策と水分補給を忘れないこと！
３．植物と昆虫を捕まえて観察してから放ちます。
４．植物のトゲや毒をもつ昆虫には注意しましょう。

【シモバシラの花】

時間配分　　9;45　受付
10:00～10:10　蓮華亭にて挨拶・資料配布・今月の自然解説
10:15～11:45　コース
綿打池を時計回りで移動し展望台、市民プール近くまで行き、戻ります。
①10月に咲く花の観察　　②木の実の標本づくり・ドングリ工作
③ひっつき虫の戦略とは　　④昆虫採集「カマキリ・バッタなど」
11:50～12:00　今日の観察会を振り返って。　来月の予定　11月11日（土）10:00～12:00

≪観察のポイント≫

１．千葉公園内を歩いていると、とても良い香りが漂ってきます。香りに誘われていくと黄色い花に行きつきます。キンモクセイの香りです。花を袋にとって「匂い袋」にしてみましょう。
２．ぶな科のカシの仲間にはアカガシやアラカシ、シラカシ、ウバメガシなどの樹木があります。特にウバメガシの木炭は金属音がするほど堅い「備長炭」として焼き鳥などに利用されます。
３．空き地によく茂り、子どもの背丈ほどの大型の草が見られます。それがオオアレチノグサとヒメムカシヨモギです。どちらも良く似ていますが、キク科の特徴である頭花を観察します。
４．真夏の暑さを避けていた昆虫は気温が低くなるこの時期には次の世代へ命のバトンタッチの準備を始めます。ジョロウグモの網には雌雄が見られます。カマキリはどうしているかな？
５．アメリカセンダングサの種はどのように散布されるのでしょう？　種を観察してみましょう。先ずは、種の先端部分がいくつに分かれていますか？　トゲの出方も調べてみましょう。
６．公園のあちらこちらで見られます。新芽は赤く、萌芽力が強いので幹にも胴吹き芽が出ます。6月頃に香りのよい花を咲かせ、その後に1.5㎝の球形の実ができ、熟すと赤い実となります。

主 催：NPO法人 ちばサイエンスの会　連絡先 080(3503)6059（亀井）

9 月 8 日の台風 13 号は線状降水帯を伴って千葉県に居座り、各地に大雨を降らせ千葉公園の綿打池は氾濫し、カフェハーモニーは床上浸水に見舞われました。木々が伐採された結果、心配していた土石流が斜面を下り綿打池へ流れ込み、水面が上昇して一気に排水溝へ向かって流れ、防水壁を超えていきました。排水溝にはボートのオールやゴミが散乱していることが激しさを物語っていました。

秋分の日を過ぎて、徐々に秋が深まっていきます。そして朝方には鳥のさえずりで目を覚ますこともあります。モズの高鳴きやカラ類が木々の中で盛んに動き回っています。

秋の花々が咲き始めました。ヤナギバルイラソウ・ワレモコウ・ホトトギス・シモバシラなどです。そして花の蜜を求めて昆虫も集まってきました。ホバリングをしながら口吻を伸ばして吸蜜するオオスカシバの姿は実に芸術的です。深まる秋に向けて昆虫は子孫を残す準備に入りました。ジョロウグモの巣には中央に大きなメスがちょっと距離を保って小さなオスの姿が見られます。大きなお腹をしたカマキリにであったら産卵を控えたメスです。暖かく見守ってあげましょうね。

≪10 月の自然観察≫

１．キンモクセイ（もくせい科）　漢字表記では「金木犀」

キンモクセイの香りがどこからか漂ってきます。昨年は９月 10 日前後に香り始めましたが、その後の急激な気温低下によって数日で香りも花も消えてしましました。例年は 10 月の初めごろに咲き出すのですが、今日は９月 27 日、キンモクセイの香りと黄色の花が色づいてきました。漢字で書くと「金木犀」です。どうして動物の犀「サイ」の字を使うのでしょう？　それは幹を観察すればわかりますよ。また、花びらにみえる４枚のものは萼（がく）に当たります。オシベ２，不完全なメシベ１の構造もしっかり確認してみましょう。

雌雄異株の植物で、日本には花付きの良い雄株だけが移入されたため結実はしません。

【常緑樹の光沢のある硬い葉】　【４枚の黄色い萼とオシベ２】　【樹皮はサイの肌に似てますね】

２．ウバメガシ（ぶな科）

ウバメガシの葉を調べてみると、葉は小さくて固くて丈夫そうに見えます。そしてドングリといえば葉と同じぐらいの大きさであることが分かります。ドングリがすぐにおちてしまうのは、殻斗が浅いためにドングリが外れやすいようで、木についている期間は短いようです。

ウバメガシの木は備長炭として最上級の薪炭材となります。防潮、防風用生垣として公園や庭園に植栽されます。名前の由来は、新芽の色が茶褐色で姥（おばあさん）を連想させるから。

【ウバメガシのドングリ】　【生長したドングリ】　【ウバメガシの幹】　【生垣に利用される】

３．オオアレチノグサとヒメムカシヨモギの違いは？

どちらもキク科の植物ですね。８月にヒマワリやキバナコスモスの観察をしました。その時に筒状花と舌状花の観察をしました。オオアレチノグサは小さな頭花が集まって円錐形の花序が見られ、頭花を調べてみると、小さな筒状花の集まりで舌状花がほとんど見られません。

ヒメムカシヨモギも頭花が集まっていますが円筒形の花序になり、その中心には筒状花、まわり

に舌状花が見られます。虫メガネでしっかりと観察してみましょう。

【オオアレチノギクの筒状花と種子の写真】　【ヒメムカシヨモギの筒状花と舌状花、種子】

４．カマキリをさがそう（かまきり科）　オオカマキリとハラビロカマキリ

オオカマキリが路上で車に引かれた姿を見ました。これから子孫を残していく大切な時期を迎えます。大きなお腹の大きなカマキリがいたらメスなので、そっと見守ってあげてくださいね。

忠霊塔近くのアズマネザサにオオカマキリの卵のうを見つけたのが２月でした。ハラビロカマキリの特徴は写真でみると前脚に白い点が三つ見えます。卵は木の幹に生みます。

【オオカマキリがゆっくり移動】　【ハラビロカマキリは前脚に白い丸い斑点が３つあるよ】

５．アメリカセンダングサ（きく科）　遊び：オナモミ投げ遊びをします！

アメリカセンダングサの黄色の花が終わり、その先端にトゲのついた種が見られます。そのトゲはいったいどんな構造をしているか調べてみましょう。

秋の野山を散策すると、知らないうちに洋服にいろいろな植物の実がついていることがあります。ひっつき虫の正体は種子のトゲにあります。トゲを観察すると逆向きのトゲであることが解かります。漁師さんが魚を取るのに使うヤスのような形をしています。これで洋服にくっついて種子の移動を可能にするわけです。アメリカセンダングサの先端は二つに分かれています

イノコズチ、オナモミ、キンミズヒキなどはどのような戦術で種子を移動するのでしょう？

【ひっつき虫の戦略はフック型・逆さトゲ型・ヘアピン型・粘着型など】【フック型のオナモミ】

６．モッコク（つばき科　→ もっこく科）

つばき科の常緑樹で、果実や葉柄が赤い色をしています。材も赤みを帯びて緻密で堅く、強度は大きいのがつばき科の特徴です。そのため床柱、掛け軸、細工物などに重宝されます。

かつての琉球では首里城の建築に使い、庶民の伐採を禁じたといいます。６～７月に咲く花は岩に着生するらん科の石斛（セッコク）の香りがするというので木斛（モッコク）と命名されました。葉：厚くつやがあり全縁（長さは４～７㎝の長楕円状）【葉柄と実が赤くなる常緑樹】

花：黄白色で小花が下向きに咲く　実：１㎝程の赤紫色、割れると４個の赤い種子が出る。

≪10 月≫ 千葉公園の自然風景（花・草・鳥・昆虫など）

①芳香剤のキンモクセイは人気があり、子どもたちは「トイレの匂い」と言います。

②葉が小型で堅く、材は緻密で比重は 1.01 で日本の木では最も重いため水に沈みますよ。

③オオアレチノギク　円錐形・筒状花

ヒメムカシヨモギ　円筒形・筒状花と舌状花

④前脚を大きく伸ばして威嚇するオオカマキリだ

三角の顔をアップにしてみると中々凛々しい。

⑤アメリカセンダングサの実を投げて遊ぶ子ども達。なぜ服につくのか実を取って調べてみよう。

⑥小さなリンゴがいっぱいついているようです。どんな鳥が木の実を食べているか観察しよう。